



あるいて。みつけて。

ふじさわ
パブリック
アート
散歩



さんぽ



藤沢市アートスペース
Fujisawa City Art Space

目次

MAP_ 藤沢南部…4-5

弁財天と世界女性群像…6

エドワード・S・モース記念碑…7

孔雀彫刻／石塔…8

雲の形…9

海の詩…10

読み物

つくったひとに、あいにく①…11

片瀬こま／大望の像…12

読み物

つくるひとに、きいてみる（前）…13

平和の像…14-15

道標…16

デミター（豊かな実りをもたらす女神）…17

MAP_ 藤沢駅周辺…18-19

核兵器廃絶平和記念像…20

読み物

つくったひとに、あいにく②…21

名誉市民片山哲先生／翔…22

待ちぼうけの石…23

高田博厚の3作品…24

まごころ…25

円舞…26

我が家のソクラテス／愛と友情…27

めでたき富士…28-29

湘南讃歌／大気の白／みぎわ…30-31

商店街を彩るモニュメント…32-33

QUIESCENT ELAN…34

真心…35

MAP_ 藤沢北部1…36-37

引地川親水公園 欄干の彫刻…38

春の詩／自然…39

二番構公園の彫刻…40

光る風／駆ける太陽と共に／空の表情…41

シャツブラウスの娘…42

大黒橋のモニュメント／

大庭台墓園のブロンズ像…43

友情…44

読み物

つくるひとに、きいてみる（後）…45

MAP_ 藤沢北部2…46-47

ブロンズ像の子どもたち…48-49

にっぽんの詩…50

湘南台公園のハニワたち…51

特集

まだまだほかにも…52-53

事例報告

まちの彫刻ピカピカプロジェクト…54

Fujisawa Art Re;public…55

編集後記…56

・作品データは、作者（略歴）、竣工年、作品寸法（H高さ、W幅、D奥行き、φ直径）、作品材質、設置場所の順に記載しています（判明していない事項は記載なし）。

・作品名が判明しているものは作品名と表記しています。

・地図上の㊸～㊿は、p.52とp.53掲載の作品です。



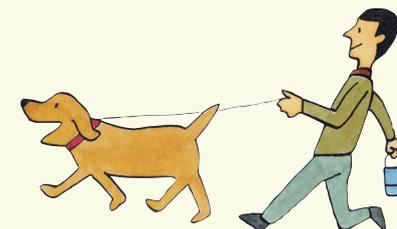
いつもの通勤、通学や買い物の途中で見かける、何となく気になるポーズの像や不思議な形のオブジェ。でも、立ち止まってじっくり見つめることなく、通り過ぎてしまう人も多いのではないのでしょうか。

『あるいて。みつけて。ふじさわパブリックアート散歩』はその名の通り、散歩の途中などに気軽に、身の回りにあるアートに触れてほしいとの思いから生まれました。

冊子をつくるにあたり、まず行ったのは、“誰でも見られる場所に置かれた立体造形作品”である市内のパブリックアートの情報を集めること。すると、作品が集まっている場所や、広く分布している場所など、各地域の状況が見えてきました。そこで、実際に足を運びやすいよう、市内を四つの地域に分けて紹介することにしました。

もちろん、鑑賞の仕方は人それぞれです。設置された理由や、使われている素材、表現されている人や物など、情報から入るもよし。もしくは、まず作品と対面して、心の声で話しかけてみるのもまたよし。時には作品の目線に立って見えるものを確認したり、周囲の風景を眺めたりするのも楽しいかもしれません。

パブリックアートは、美術館などの建物の入口をくぐらなくても、好きな時間に自由に見ることのできる芸術作品です。みなさんの日々の暮らしの中で、そんな作品との出会いや新しい発見があればと思います。





② エドワード・S・
モース記念碑
→ P7



③ 孔雀彫刻
(吉祥永駐)
→ P8



④ 石塔
→ P8



⑤ 雲の形
→ P9



⑥ 海の詩
→ P10



⑦ 片瀬こま
→ P12



⑧ 大望の像
→ P12



⑨ 平和の像
→ P14-15



⑩ 道標
→ P16



⑪ デミター (豊かな
実りをもたらす女神)
→ P17



① 海鳴りの樹
→ P52-53



② 渚
→ P52-53



③ ブロンズ像
(2人の子ども)
→ P52-53



④ 日の出橋
欄干のカモメ
→ P52-53



⑤ 1964年の
オリンピックの聖火台
→ P52-53



⑥ 自由の翼
→ P52-53



⑦ 弁財天
と世界女性群像
→ P6



THE SOUTHERN PART OF FUJISAWA 藤沢南部 MAP



大森貝塚の発掘で知られるアメリカの動物学者、モース。1877年に来日し、江の島の漁師小屋を借りてシャミセン貝を研究。親戚家で、日本の動物学や考古学の発展に寄与しました。

りょうしごや
漁師小屋が
きちようけんきゅうじょ
貴重な研究所だった!?



② エドワード・S・モース記念碑 きねんひ

② 作者/山本 正道(やまもと・まさみち 1941-)…京都府生まれ。東京藝術大学彫刻科で学んだ後、イタリアに留学しファッツィーニに師事。風景を彫刻にする独特な表現で知られるが、山下公園(横浜市)の「赤い靴はいてた女の子像」など具象彫刻も多く手がける。藤沢市在住。

竣工年月日/1985年4月14日 作品寸法/H48×W148cm(レリーフ部分) 作品材質/ブロンズ

📍江ノ島北緑地広場(江の島1-1)

① 作者/加藤 顕清(かとう・けんせい 1894-1966)…岐阜県生まれ。東京美術学校(現東京藝術大学)彫刻科で高村光雲らの教えを受け、卒業後に西洋画科に再入学して油彩も学んだ。1952年日本芸術院賞受賞。1963年藤沢市大庭にアトリエと住居を構え、その後鶴沼に転居。

竣工年月日/1964年10月1日

作品材質/ブロンズ

📍江ノ島北緑地広場(江の島1-1)



① 弁財天と世界女性群像 べんざいてん せかいじょせい



たいび
5体の美が
お織りなすハーモニー

1964年の東京オリンピックで、江の島がヨット競技の開催地となったことを記念してつくられました。噴水池の中心には弁財天、周りには東洋と西洋の古代と現代の女性を表す4体の像。5体が表すのはオリンピックの五輪です。弁財天は江の島にまつられていることでもおなじみですね。



⑤ 雲の形

べんてんばし
弁天橋の
まなか
真ん中でリラックス

今日の
江の島の雲は、
どんなカタチ？



江の島上空にもくもくと湧いた雲に、砂浜にごろりと寝そべる女性の姿を重ねて作られたのがこの像。ユーモラスかつ忘れがたいフォルムで、橋を渡る人々の目を引きま

- ⑤ 作者/山本 正道 (やまもと・まさみち 1941-)
※略歴はP7
竣工年/1987年
作品寸法/H41 × W103 × D48cm
作品材質/ブロンズ
📍小田急線「片瀬江ノ島」駅前、弁天橋上

3羽のクジャクはファミリー



③ 孔雀彫刻

きっしょうえいちゅう
(吉祥永駐)

③ 竣工年/2002年

作品寸法/H190 × W420 × D195cm

作品材質/ブロンズ

📍江の島サムエル・コッキング苑内昆明広場
(江の島2-3-28内)

昆明市は、中華人民共和国雲南省の都市。1981年に藤沢市と友好都市提携を結び、2002年に同市からこの像が贈られました。雲南省では孔雀は吉祥のシンボルであり、21世紀が人々にとっての平和な発展の世紀であるようにとの願いを込めて作られています。

④ 竣工年/2003年

作品寸法/H300 × W45 × D45cm (向かって右)、H270 × W45 × D45cm (向かって左)、
作品材質/黒御影石ほか

📍江の島サムエル・コッキング苑内保寧広場
(江の島2-3-28内)

④ 石塔



うみ
海のある姉妹都市に
おも
思いをはせる

2002年に藤沢市と姉妹都市になった保寧市(大韓民国・忠清南道)から、2003年に姉妹都市提携を記念して寄贈されました。同市の海水浴場は、貝がらでできた砂浜が有名。風光明媚な都市で、藤沢市の環境との共通点も多いのです。



つくったひとに、あいにく① 親松 英治さん

市内のブロンズ像《海の詩》《翔》の2作品を制作した彫刻家の親松英治さん。お話を伺いに、みその台のアトリエを訪ねました。緑豊かで、街の喧騒から遠ざかったこの地を親松さんが拠点と決めてから10年が経ちます。

「片瀬海岸に22、3年暮らし、都合で引越せざるを得ず制作場所に困っていたところ、妻が『聖園女学院の修道院に相談してみたら?』と。思い切って訪ねたら、運よく倉庫を借りられることになりました。普段はここで制作しながら、施設内の古い像の修理など、修道院の美術係のようなこともしますよ」

自らもクリスチャンで、アトリエ内の全長9mを越す木彫の聖母子像をはじめ、片瀬カトリック教会の庭に立つマリア像も親松さんの手に成るもの。制作をするうち地元との縁が深まり、片瀬漁港整備の際に《海の詩》を寄贈することに。その後ロータリークラブに入会してからは、同会のご精神である社会貢献を自分もしたいとの思いから、藤沢市民会館の前庭に《翔》を寄贈しました。この2作品はいずれも、独特なポーズとバランスの妙が特徴です。「像は写実的に表現していても、構成は抽象的なのが好きでね。支点を小さくし、バランスに気を遣って作ります。ただ立っているだけじゃ、面白くないしね。ポーズは、自分が指示するよりもダンサーのモデルさんが自発的に取ってくれるポーズの方がよほど素晴らしいですよ」

親松さんが考えるパブリックアートに必要なこととは、「置かれる場所に合っていること」。「作品の良し悪しより、むしろ場所との合致が気になりますね。何でここに設置したのだろう? というのも世の中には多い。作家自身ももっと置き場所に干渉していくべき」と語ります。実際に、寄贈の2作品の設置にも場所に合うテーマを意識し関わってきました。

当年にとって86歳。作ってみたい作品は? と尋ねると、「願わくば“サモトラケのニケ”のような大きな作品を作って江の島の橋の真ん中にドーンと置いてみたいなあ」とのこと。衰えることない創造力の源は、石名坂温水プールでの水泳と、アトリエいっぱい架けた足場の上で日々行う木彫の聖母子像の仕上げ作業と言います。この像は、寄贈受入先の事情により未だ親松さんの手元にある状況です。

「作家にとって作品は娘のようなもの。『わが身に代えても大切にします』と言われてはじめて嫁に出せる」という親松さんの言葉は、制作するすべての人に通じる思いではないでしょうか。



アトリエにて（木彫の聖母子像と）

佐渡島出身の作者は子どもものころいつも海に潜って元気に遊んでいたそう。鯛を抱えて逆さになったユニークなポーズは、海の中をイメージしているからなのです。片瀬漁港の整備記念に寄贈されたこの作品は、海の事故がないように、と祈る思いも込められています。

⑥ うみ うた 海の詩



少年と鯛の表情を見るならこのアングル!



⑥ 作者/親松 英治（おやまつ・えいじ 1934-）…新潟県生まれ。日展を中心に活躍し、海外にも広く紹介され、1981年に木造のマリア像をローマ教皇ヨハネパウロ二世に献納した。カトリック片瀬教会（片瀬海岸）の聖母子像も手がけた。藤沢市在住。

竣工年/2006年
作品寸法/H約200×W170×D65cm
作品材質/ブロンズ
●片瀬漁港交流広場（片瀬海岸2-20）



つくるひとに、きいてみる
石川 直也さん

パブリックアートを見て、「何でできているのかな?」「どうやってつくるのかな?」と思ったことはありませんか。そこで、石の彫刻家・石川直也さんに、市内のパブリックアートの中でも数多い“彫刻の作品”について、教えてもらいました。

編集（以下、H）. パブリックアートとしての彫刻の技法には、どんな種類がありますか?

石川（以下、I）. 彫塑[※]、石彫、金属彫刻が代表的です。近年では新しい素材や手法による彫刻も増えてきています。人物や動物などの形を具体的に探る具象彫刻と、モチーフを抽象化、または素材そのものを活かした形の抽象彫刻があります。日本の彫刻には木彫も欠かせませんが、雨風や乾燥に弱いので野外にそのまま置くことはありません。

※彫刻と、その原型となる塑像（立体造形）のこと。ブロンズの彫刻の塑像は粘土や石膏で作られる（編集注）

H. テーマは、どうやって決めるのでしょうか?

I. 身近なものをモデルとすることが多い個人的な作品とは異なり、公共の空間に置かれる作品の場合は、その土地や社会、そこで暮らす人の日常に寄り添ってモデルやテーマを決めることが

多いのではないのでしょうか。

H. 石川さんは、作品を作るときにどのような手順で進めますか?

I. エスキースやマケットと言われる下書きをして、素材（材料）を選び作り始める場合と、素材がまずあり、そこから作れるものを考える場合があります。私は後者で、いびつな石の塊から、そこにどんな形が見えてくるか想像するところから始まります。ある程度見えてきたら、石自体に線を描いていき、いらない量を、ドリル、ダイヤモンドカッター、ノミなどを使って削ぎ落としていきます。石のノミや刃先は、作品の石の材質によって使い分けます。形が出来てくると、ヤスリや砥石などの研磨で形を仕上げます。

H. 石は、石彫作品だけでなく他の素材による作品の台座にも使われますね。どんな種類があるのですか?

I. 多く使われるのは御影石^{みかげいし}で日本でも多く採れる石です。花崗岩の一つでも硬く野外でも耐久性が高く、抽象的な形に向いています。ヨーロッパなどで多く採れる大理石は変成岩の一つで、粘り強く加工がしやすいですが、野外でも大丈夫なものの少しずつ表面が劣化します。具象的な形向きですね。あとは堆積岩^{たいせきがん}の一つで砂岩^{さがん}も使われます。加工がとても容易ですが、耐久面では他の石に劣ります。

湘南地域で遊ばれてきた片瀬こま。本体はツバキ、心棒は漁船のオールに使われるカシで作られ、相手のこまを弾き飛ばす重さと硬さから、「けんかこま」とも呼ばれるそう。

きょうど った
郷土に伝わる
おもちゃ、
知ってる?



⑦ 竣工年月日 / 2009年11月8日
作品寸法 / H25 × Ø 26cm
作品材質 / ステンレス
◎ 片瀬漁港交流広場（片瀬海岸 2-20）

ちきゅう 地球は子どもたちの手の中に
たいぼう ⑧ 大望の像



見上げると日差しがこんなにまぶしい



地球を両手で支え持つ少年と少女の像。これからの世界を担うのは子どもたち、ということ象徴しているようです。彼らの頭上に降る木もれびのような、優しい未来が待たれます。

⑧ 作者 / 般若 純一郎（はんにゃ・じゅんいちろう 1931-）高岡工芸高校卒業後、米治一氏に師事し彫塑技術を習得。

竣工年月日 / 1968年4月1日
作品寸法 / H121 × W53 × D36cm
作品材質 / ブロンズ
◎ 西浜公園（片瀬海岸 3-1-30）



この景色を
楽しめる毎日が
続くように…

⑨ へいわ ぞう 平和の像

⑨ 作者／難波 孫次郎（なんば・まごじろう 1914-2010）…神奈川県生まれ。平柳田中や北村西望に師事。日本の古典的な仏像表現を基盤としながら、筋肉美や躍動する身体をとらえた力強くダイナミックな作品を残した。

竣工年／1965年

作品寸法／H約600×W175×D141cm

作品材質／ブロンズ

●湘南海岸公園（鶴沼海岸 1-17-3）



み 見つめるのは丹沢^{たんざわ}の山々か、
やまやま
とお っと遠くの未来か
みらい

高く掲げた右の拳に、平和の象徴である鳩を乗せたたくましい男性の像。穏やかな湘南の海に背を向け、その眼差しは静かで、口は引き結ばれています。筋肉を強調した造形とインパクトに満ちたたたずまいは、師匠の北村西望^{せいはう}による長崎の「平和祈念像」とも重なります。



空のキャンバスに曲線の花が咲く



⑪ デミター (豊かな実りをもたらす女神)

⑩ 作者／サール・シュワルツ (1912-2004) …アメリカ生まれ。イタリアのヴェローナを拠点に創作活動を行いながら、コロンビア大学(アメリカ)で彫刻を指導。1972年初来日。妻の熊坂兎子と共に湘南とイタリアを行き来しながら作品を発表した。

竣工年／1990年4月
作品寸法／H約500×φ136cm
作品材質／ステンレス
☑長久保公園(辻堂太平台2-13-35)

デミターとは、ギリシャ神話に登場する、穀物の栽培を人間に教えたとされる女神のこと。高く伸びた中心部は、木の幹にも両手を広げた人のようにも見えます。上部の曲線は、生い茂る木の葉、それとも女神のウェーブした髪? あなたにはどのように見えますか?

column

長久保公園(長久保公園都市緑化植物園)敷地約34,000㎡の園内には、サクラの芝生広場や藤棚、季節の花が咲き乱れる花壇、ハーブの畑など、季節の多彩な表情が見られます。運が良ければ、池に飛来するカワセミが見られるかも。



橋の上で羽を休める



今日は誰かに
気づいて
もらえるかな?

⑩ どうひょう 道標

欄干にとまるハトの彫刻は、橋を渡る人々の心をなごませてくれます。作者は、自分の人生と重ね合わせて、この《道標》シリーズを晩年まで作り続けたそうです。

⑩ 作者／柳原 義達(やなぎはら・よしたつ 1910-2004) …兵庫県生まれ。朝倉文夫らの指導を受ける。1965年に動物愛護のためのモニュメント制作を依頼されて以来、鳩や鴉などをモチーフとした《道標》シリーズに取り組んだ。

作品寸法／H54×W30×D18cm(上の写真)
作品材質／ブロンズ
☑作橋(辻堂太平台1-17付近)






14 波
→ P21




**15 名誉市民
片山哲先生**
→ P22




16 翔
→ P22




**17 待ちぼうけ
の石**
→ P23




18 地
→ P24




19 空
→ P24




20 海
→ P24




21 まごころ
→ P25




22 円舞
→ P26




23 愛と友情
**24 我が家の
ソクラテス**
→ P27




25 めでたき富士
26 みぎわ
27 大気の白
→ P28-29、P30-31




28 湘南讃歌
→ P30-31




29 海行く物 **30 海を望むオーケアニデス**
31 サムジュモールの波
32 サムジュモールの樹
33 サムジュモールの太陽 **34 海の形**
→ P32-33




**35 QUIESCENT
ELAN**
→ P34




36 真心
→ P35




**G ぶどうを持つ
少女**
→ P52-53




**H 藤沢聖苑の
モニュメント** → P52-53




I 弥勒寺太郎
→ P52-53




**L 平和
モニュメント**
→ P52-53

AROUND FUJISAWA STATION 藤沢駅周辺 MAP



Map labels include: 藤沢聖苑 (H), 藤沢市民病院 (G), サム・ジュ・モール, JR 藤沢駅, 藤沢市役所, 奥田三角公園 (I), 弥勒寺第二公園, 奥田公園, 市民会館, 旧近藤邸, 秩父宮記念体育館.

QR code for item 12: **12 核兵器廃絶
平和祈念像
(平和の母子像)**
→ P20

QR code for item 13: **13 貝**
→ P21



写真提供：熊坂兎子

つくったひとに、あいにく② 熊坂 兎子さん

国道467号線を片瀬江ノ島方面に向かう途中、藤沢市民会館の手前で目にする白く大きな彫刻作品があります。一体あれば何だろうと思う人もいるかもしれません。それは、《核廃絶平和祈念像》通称“平和の母子像”です。作者の熊坂兎子さんは、藤沢市で育ち、東京藝術大学芸術学科を卒業、30代で単身アメリカへ渡り、帰国後は湘南とイタリアを拠点に活動した彫刻家です。

この像は、戦後50年の節目に平和を祈念するモニュメントの制作を藤沢市が依頼し、設置されました。母親が子どもを抱えている姿に見えますが、この母親は地球、母なる大地を、子どもは人類をイメージしているそうです。素材は、イタリアのピエトラサンタで採石した大理石で、大理石特有のマーブル模様が少ない、白い部分の使用にこだわっており、熊坂さんの多くの作品にこの白い大理石が使われています。夫、サール・シュワルツさんが制作した台座のレリーフは、平和な世界での様々な国の文化交流が進むこと、そして広島や長崎で起こった悲劇が二度と繰り返されないことを願ったデザインとなっています。

実はこの作品にはユニークなエピソードがあります。この大理石の採石場には石の工房があり、熊坂さんはその職人とともに作品を制作していました。工房には世界中から彫刻家が集まってきていて、彼らは熊坂さんの作品が気になって仕方がない様子で「たくさんの方が手を加えていった」とのこと。像のまわりにある腰掛けは、同

じくイタリアのヴェローナで採れた石で、西欧の教会の柱をもとにデザインされています。設置場所の改修以前は腰掛けの下に韓国産のピンク色の石が敷き詰められていたそうで、夫妻が願ったとおり、まさに多様な文化を取り入れた作品なのです。また、作品の台座を低くしたことで、「子どもたちが彫刻にふれて、台座に登って遊べる、そんな人々の交流の場所にしたかった」そうです。一部作品が破損したことがあったため、現在は木の杭で囲ってあります。作品には丁寧に触れていただき、これからもまちのシンボルとして在り続けてほしいです。

市内にある熊坂さんの作品のほとんどが海外で制作されたものですが、《波》や《貝》など海を連想させる作品が多く見られます。しかしこの海は海外の海ではないようで、「コロラドの山で石を掘っていても、頭の中にはいつも藤沢の海があった。意識しなくとも藤沢の海を表現していたのね」と藤沢への思いを語っていたのが印象的でした。



13

13 貝 制作年／1967年、作品寸法／H43 × W87 × D48cm、作品材質／大理石 ●奥田公園前広場（鶴沼東7-1）



14

14 波 制作年／1970年、作品寸法／H71 × W100 × D70cm、作品材質／大理石 ●藤沢市民会館中庭（鶴沼東8-1）

⑫ かくへいきはいぜつへいわきねんぞう (平和の母子像)



⑫ 作者／熊坂 兎子（くまさか・なおこ 1933-）…神奈川県生まれ。藤沢高等学校（のちの藤沢高等学校）出身。大理石の持つ自然の風合いを生かした作品を制作。1978年にサール・シュワルツと結婚、共に制作活動を行った。鎌倉在住。

竣工年／1995年
作品寸法／H176 × W176 × D120cm
作品材質／大理石
●奥田公園前広場（鶴沼東7）

ひと つつ
みる人を包みこむような
やさしさ



作者は本作品をイタリアのピエトラサンタで制作。母と子のフォルムが、大理石という素材を超えたやわらかな存在感を放ちます。台座の16枚のレリーフパネルは夫のサール・シュワルツ（p.17参照）の手になるもの。世界地図や子どもたちなど、多彩なモチーフをじっくり観察してみてください。





⑮ 作者／関根 伸夫（せきね・のぶお 1942-2019）…埼玉県生まれ。多摩美術大学で斎藤義重と高松次郎に師事する。「もの派」をリードする作品を次々に国内外で発表。「公共空間を活性化させるアート」に関心を移し、多くのモニュメントやプロジェクトを実現した。

竣工年／1971年4月1日
作品寸法／H202 × W117 × D55cm
作品材質／御影石
◆奥田三角公園（鶴沼東2）

携帯電話が普及する少し前までは、待ち合わせをしてもうまく連絡が取れず、何時間も待ちぼうけを食らう、なんてことは日常的にありました。大切な誰かを、待って待って待ち続け、とうとう石に…。残った体の一部が、顔の表情よりも雄弁にその心を物語っているように見えませんか？

待ち人來たららず、石になる



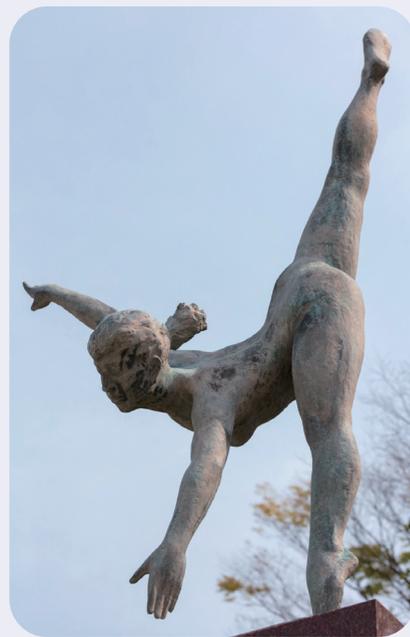
⑮ 待ちぼうけの石

片山哲（1887-1978）は日本の政治家で1947年に内閣総理大臣を務めました。1924年に片瀬に居を構え50年以上暮らし、藤沢市の第一号の名誉市民となりました。『文人宰相』といわれた勉強家で、その蔵書は湘南大庭市民図書館に「片山哲文庫」として保管されています。

⑯ 作者／菅沼 五郎（すがぬま・ごろう 1905-1999）…愛知県生まれ。池袋モンパルナスで学生時代から制作を続け、1952年藤沢に移住。2004年に藤沢市民ギャラリーで「藤沢市30日美術館 菅沼五郎展」が開催された。

竣工年／1972年
作品寸法／H89 × W80 × D50cm
作品材質／ブロンズ
◆藤沢市民会館前（鶴沼東8-1）

⑯ 翔



音楽や演劇やダンスなど、さまざまなプログラムを発信する藤沢市民会館。ここにふさわしいモチーフとして作者が選んだのが、バレエでした。軽やかに決めたポーズにご注目！

市民会館へ誘う
華麗なバレリーナ



⑰ 作者／親松 英治（おやまつ・えいじ）
※略歴はP10

竣工年／1991-1992年
作品寸法／H200 × W95 × D57cm
作品材質／ブロンズ
◆藤沢市民会館前（鶴沼東8-1）

市民会館を見つめる文人宰相のまなざし



⑰ 名誉市民 片山哲先生

まごころは態度に表れる

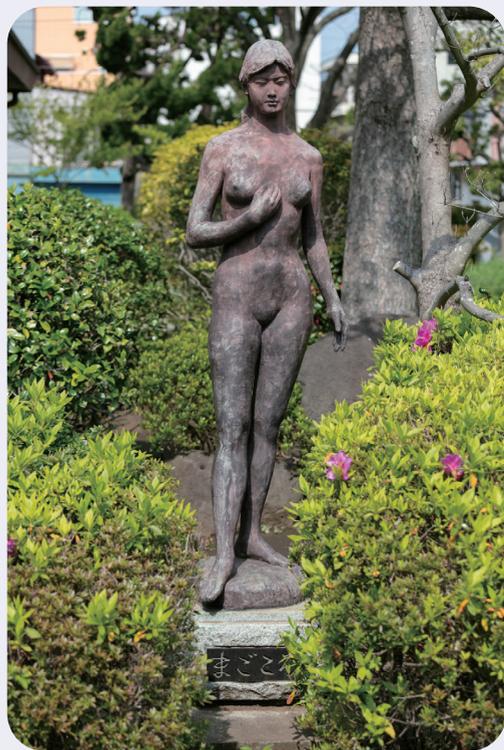
樹々の間にたたずむスラリとした女性像。胸の中心、ちょうど心臓のあたりに右手を当て、まごころというタイトルを分かりやすくポーズで表しています。



横顔もすてき



⑳ まごころ



⑳ 作者／陶山 定人（すやま・さだと 1926-2009）…広島県生まれ。女性美を追求した作品に定評がある。相模原市に拠点を置き制作活動を行った。1999年より日展評議員、相模原芸術家協会会長を務めた。

竣工年／1986年
作品寸法／H180 × W54 × D47cm 作品材質／ブロンズ
◎ 旧近藤邸前庭（鶴沼東 8-1）

column

「旧近藤邸」

1925年に辻堂東海岸に建てられた実業家・近藤賢二氏の別荘で、1981年現在の地に移築されました。フランク・ロイド・ライトの弟子・遠藤新による有機的建築で、日本の自然環境と住む人の調和に重点が置かれています。



高田博厚の3作品

⑱ 地

駅を利用する人にも、見つめてほしい



彫刻家であり文筆家でもあった高田博厚の作品は、藤沢市内に3つ設置されています。そのうち《海》は1962年に東京で作られ、《地》と《空》は、1978年に鎌倉・稲村ヶ崎のアトリエで作られました。それぞれの女性像がとるポーズ、タイトルから想起させるイメージなど、ぜひ見比べてみてください。

- ⑱ 竣工年／1978年
作品寸法／H73 × W73 × D58cm
作品材質／ブロンズ
◎ J R 藤沢駅南口ペDESTリアンデッキ入口
- ⑲ 竣工年月／1979年9月
作品寸法／H128 × W56 × D43cm
作品材質／ブロンズ
◎ 奥田公園前広場（鶴沼東 7-1）
- ⑳ 竣工年／1962年
作品寸法／H77 × W33.5 × D28.5cm
作品材質／ブロンズ
◎ 藤沢 115

ここから
⑫《核兵器廃絶
平和祈念像》が
チラッと見えます



⑲ 空

作者／高田 博厚（たかた・ひろあつ 1900-1987）…石川県生まれ。高村光太郎の勧めで彫刻を始める。1931年に渡仏し、ロマン・ロランやジョルジュ・ルオーらと交流を持つ。1957年に帰国、鎌倉の稲村ヶ崎にアトリエを構え創作活動を行った。随筆家でもある。

街の中でも
気分は海辺に

⑳ うみ



作者が2年半ほど共に暮らした元盲導犬のアリスがモデル。とても賢く、モデルも大人しく務めたのだとか。こんな風につぶらな瞳でご主人を見つめていたのでしょうか。

ゆかひとぎょうぎなが
行き交う人を行儀よく眺めています



ここは市役所のロビー。
今日は何人通るかな？

②4 我が家のソクラテス

ぼりょん ゆた しぜん
保寧の豊かな自然をモチーフに

②4 作者/桑山 賀行(くわやま・がこう 1948-)…愛知県生まれ。澤田政廣の下で彫刻制作を行う。1978年藤沢にアトリエを構える。1991年に、視覚障がい者にも作品を鑑賞してもらうため、触れてみるができる展覧会を企画、以降毎年開催している。

竣工年/2010年
作品寸法/H35×W90×D47cm
作品材質/楠
◎藤沢市役所本庁舎1階
(朝日町1-1)



②3 愛と友情

姉妹都市提携5周年を記念し、保寧市から贈られたもので、山と海そして豊かな漁場が表現されています。中央に位置する新芽の花びらは、両市の友情が新しく芽生える姿と、未来に続く友好を深めることを表しています。

②3 竣工年/2007年
作品寸法/H180×W200×D70cm
作品材質/御影石、大理石
◎藤沢市役所本庁舎南側庭
(朝日町1-1)



かへじゅうちゅう
壁を縦横に走る優雅なうねり

②2 円舞

古くからヨーロッパなどで建物に使われた鉄の加工技法が、鍛鉄です。真つ赤に熱した鉄をたたいて形成し、曲線などを作っていきます。この作品は、じつはベンチとしての役割も。座ってみて鍛鉄による細かな部分の造形もぜひ観察してみてください。

②2 作者/小峰 貴芳(こみね・たかよし 1950-)…東京都生まれ。武蔵野美術大学金属工芸科修士課程修了。ドイツで鍛鉄造形を学び、帰国後埼玉県に「アトリエ遊火山」を設立。

竣工年/1997年
作品寸法/H540×W365×D40cm
作品材質/鍛鉄
◎秩父宮記念体育館外壁
(鶴沼東8-2)





column

「名誉市民」

第一号の片山哲、第七号の片岡球子を含めて、藤沢市の名誉市民は16人。これまで市ゆかりの政治家、芸術家などが顕彰されてきました。最も新しい名誉市民は、2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏です（2020年4月現在）。

② 作者／原画：片岡球子（かたおか・たまこ 1905-2008）…北海道生まれ。日本画家を志し上京、女子美術専門学校高等科を卒業後は小学校教師として勤めながら制作活動を行った。鮮やかな色彩、力強く独創的な作風で知られる。1990年藤沢市名誉市民。
※造形はルイ・フランセン（略歴はP31）、製作は現代壁画研究所。

竣工年／1983年5月
作品寸法／H340×W700cm
作品材質／陶板レリーフ
◆藤沢市役所分庁舎一階（朝日町1-1）



② めでたき富士

分庁舎ロビーの中でひとときわ鮮やかな一角が、この作品です。原画の力強さが、立体造形と組み合わせることでオリジナルとは別の存在感を放ち、モチーフ一つ一つにまで息が吹き込まれたかのよう。作者は1960年代半ばから富士山シリーズに着手し、様々なバージョンを残しました。

真つ赤な富士に、元気をもらおう

28 作者/ルイ・フランセン (1928-2010) …ベルギー生まれ。1957年にカトリック教会の宣教師として来日し、日本文化に興味を持つ。佐賀県有田町で日本の焼き物を学び、その後パブリックアート制作に関わる。陶板レリーフのほか、スタンドグラス作品などを残した。※製作は現代壁画研究所。

竣工年月/1980年6月 作品寸法/H250×W1150cm 作品材質/陶板レリーフ

◎ JR 藤沢駅改札外コンコース正面 (藤沢 75)

JR 藤沢駅に降り立った人々を迎え入れるように設置されたレリーフには、海辺の様子やヨット、花火など、湘南の風物が盛り込まれています。作者は古代バビロニアの大壁画にインスピレーションを受けてこの図柄を考案したのだとか。背景の煉瓦の美しい色合いにもご注目を。

ふじさわ げんかんぐち
藤沢の玄関口を
いろど
彩るレリーフ

しょうなんさん か
28 湘南讃歌



27 大気の白



「藤沢市の様々な日常の音、あるいは市民の声を白状のフォルムで集める装置でもある」とは作者の言葉。耳を近づけてみましょう、あなたには何が聞こえますか？

彫刻から音を、想像してみる

27 作者/前田 耕成 (まえだ・こうせい 1949-) …東京都生まれ。多摩美術大学大学院美術研究課修了後、イタリア政府給費留学生としてカラーラで制作 (1980年まで)。2004年から東北芸術工科大学で教授を務めた。

竣工年月/1992年3月

作品寸法/H100×D50cm

作品材質/小松石

◎ 藤沢市役所分庁舎前 (朝日町 1-1)

26 作者/陶山 定人 (すやま・さだと 1926-2009) ※略歴は P25
竣工年月日/1994年4月15日
作品寸法/H150×W37×D30cm
作品材質/ブロンズ
◎ 藤沢市役所分庁舎前 (朝日町 1-1)



像の気持ちを、想像してみる

26 みぎわ

白い広場も
砂浜のように
見えるわ…



波が打ち寄せる濡れた砂地のことを「みぎわ」といいます。女性は裸足でみぎわに佇み、遠い沖を見つめているのでしょうか。組んだ腕、愁いある表情が語るものとは…？

木々の葉のようにきらめく

③② サムジュモールの樹

③② 作品寸法／H172 × W73 × D73cm
作品材質／ステンレス



しょうてんがい かざ 商店街を飾るモニュメント

すす ふね モールを進んでゆく船のかたち

②⑨ 海行く物

ギリシヤ神話の、
海流を司る水の神がモチーフ



えん む あおぞら のぞ 円の向こうに青空が覗く

③③ サムジュモールの太陽

③③ 作品寸法／H125 × Ø 125cm
作品材質／ステンレス

ちよつと不思議なモコモコ



③① サムジュモールの波

3 方向の軸を用い、
波の複雑さを表現

藤沢駅北口の商店街サム・ジュ・モールの整備計画に伴い、設置された作品群です。作者は、藤沢市の自然や海を5つのモニュメントと1つのブロンズ彫刻で表現。工夫を凝らしたいろいろな形があらこちらに見つかるので、ときどき上を見上げながら街歩きを楽しんでください。

うみ のぞ 海を望むオーケアニデス

②⑨ 作品寸法／H約 600cm
作品材質／ステンレス
③① 作品寸法／H約 210 × Ø 45cm
作品材質／ステンレス

②⑨、③①～③④ 作者／兒玉慎憲（こだま・しんけん 1950 -）東京生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。1978年に「アトリエ空間工場」を設立し、モニュメントやレリーフ、モビールなど公共空間における多様な造形を手掛ける。
③④ 兒玉もえみ（こだま・もえみ 1951 -）京都府生まれ。成安女子短期大学意匠科、立体造形研究科卒業。兒玉慎憲と「アトリエ空間工場」を設立。

竣工年／いずれも1993年
◎サム・ジュ・モール（藤沢駅北口銀座通り交差点から南仲通交差点の間）

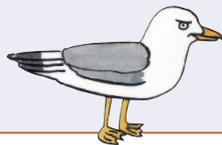


③④ 海の形

③④ 作品寸法／H約 600cm 作品材質／ステンレス

まごころ
真心を帽子の中にしのばせて

藤沢市民病院前の茂みにひっそりと設置された少女の像。大切な人のお見舞いに来たのでしょうか。帽子を両手に大事に持ち、少し緊張した面持ちが表れているよう。

まごころ
36 真心早く元気に
なってね

36 作者/陶山 定人
(すやま・さだと 1926-2009)※略歴は P25

作品寸法/H116 × W40 × D36cm
作品材質/ブロンズ
◎藤沢市民病院前庭(藤沢 2-6-1)

アートがつなぐ過去・現在・未来

遊行寺の鐘をモチーフに作られたのがこの作品。Quiescentは英語で沈着・静止、Elanは鋭気・飛翔・情熱の意味。作者は反対の言葉を結び付けることで、将来への躍進を表現しました。

35 作者/山本 一樹
(やまもと・かずき 1957-)…東京生まれ。鉄などを用いて心象風景をテーマに作品を制作。各地でモニュメント制作プロジェクトにも携わる。

竣工年/1990年
作品寸法/H180 × W70 × D55cm
作品材質/ステンレス
◎遊行通り北入口
(藤沢 41)



35 QUIESCENT ELAN

column

とうかいどうふじさわじやく
「東海道藤沢宿」

江戸時代、東海道五十三次の6番目の宿場であった藤沢宿は、遊行寺や江の島に詣でる人々でにぎわいました。藤沢橋から白旗交差点へと続く国道沿いには、当時の面影を残す蔵造りの建物が残っています。





37 引地川親水公園
欄干の彫刻
→ P38



38 春の詩
→ P39



39 自然
→ P39



40 41 42
二番構公園の彫刻
→ P40



43 光る風
→ P41



44 駆ける太陽と共に
→ P41



45 空の表情
→ P41



46 シャツブラウスの娘
→ P42



47 大黒橋の
モニュメント
→ P43



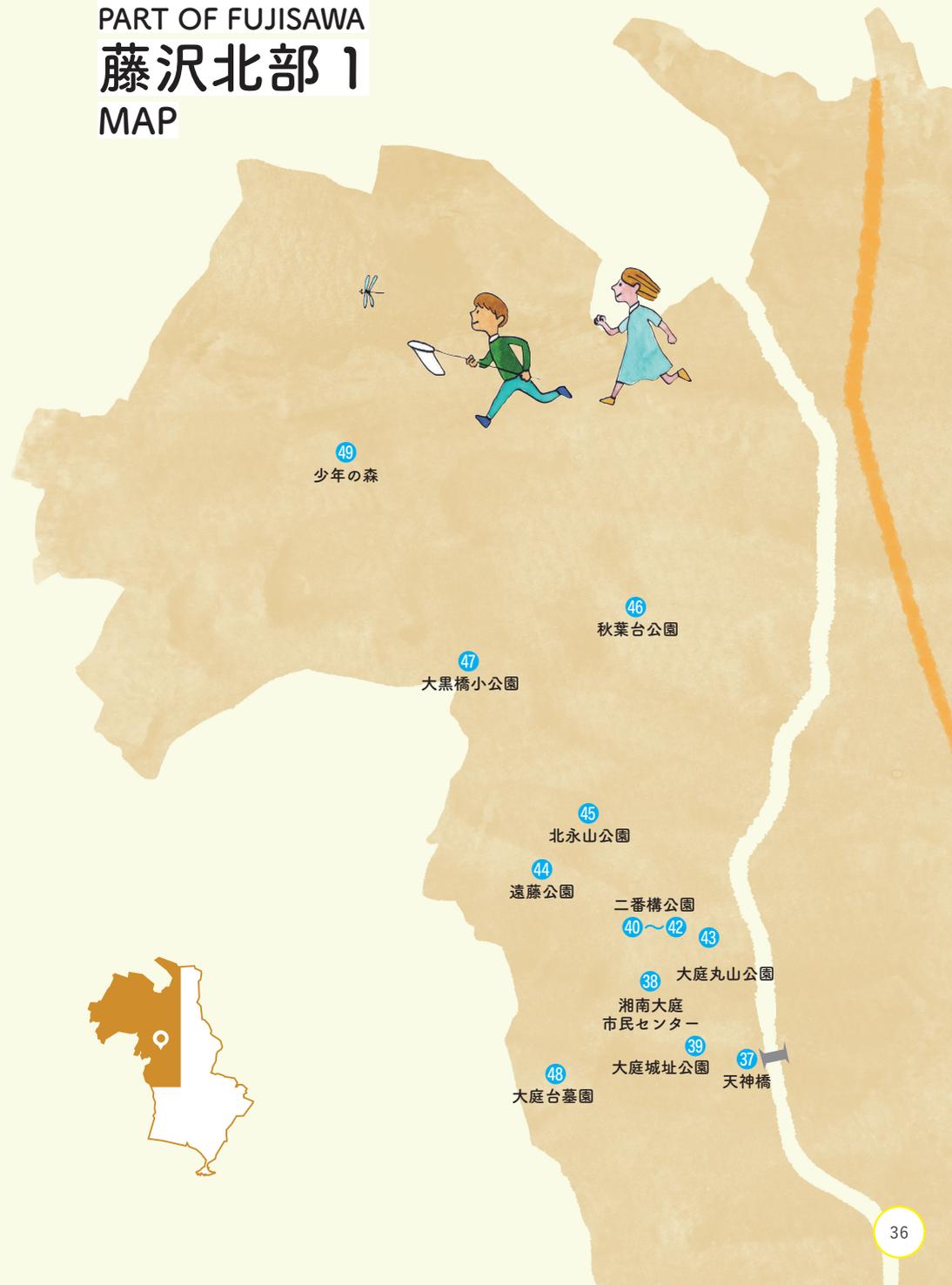
48 大庭台墓園の
ブロンズ像
→ P43



49 友情
→ P44



THE NORTHERN
PART OF FUJISAWA
藤沢北部 1
MAP



49 少年の森

46 秋葉台公園

47 大黒橋小公園

45 北永山公園

44 遠藤公園

二番構公園
40 42 43

38 大庭丸山公園

湘南大庭
市民センター

39 大庭城址公園

48 大庭台墓園

37 天神橋



鳥たちと仲良く、
来館をお待ち
しています

こんにちは、
と声をかけてくれそうな二人

38 作者/桑山 賀行 (くわやま・がこう 1948-)
…略歴は P27
竣工年/1995 年
作品寸法/建物に向かって左: H188 × W73 × D63cm、向かって右: H188 × W75 × D55cm
作品材質/ブロンズ
📍 湘南大庭市民センター 入口前 (大庭 5406-1)



制作にあたり、設置場所である湘南大庭市民センターを訪れた作者が思いついたのは、市民を迎える施設にふさわしく、アプローチを挟んで作品を向かい合わせること。鳥とたわむれる2体の少女像は、さわやかな春のイメージです。

38 春の詩

はる うた

37 引地川親水公園 欄干の彫刻

ひきじがわしんすいこうえん らんかん ちょうこく



「かたや、カエル丸こなた、カエル山まら。まったなし！」



組んだり
押したり、
勝ったり
負けたり、
もう大変！



37 作品寸法 (左から設置順に中央まで) / 行事: H29 × W27 × D13cm、立ち合い: H19 × W33 × D13cm、四つ相撲: H23.5 × W25 × D13cm、押し相撲: H19 × W33 × D13cm、勝ち: H26 × W20 × D13cm、負け: H18 × W18 × D13cm (欄干の中央から右へは、勝ち、押し相撲、四つ相撲、立ち合い、行事の順でサイズ前出に同じ)
作品材質/ブロンズ
📍 引地川親水公園 天神橋 (大庭字中沢 6510)

天神橋の欄干をフルに活用し、相撲の流れや基本動作を表現しているユニークな彫刻。カエルたちが繰り広げる熱戦をご覧あれ！ くれぐれも身を乗り出さないようご注意ください。

39 自然 ほのぼの、ゆったり、親子のひととき



《核兵器廃絶平和祈念像》(P20)と通じる雰囲気のある作品。城址公園に遊びに来たお母さんと赤ちゃんが、緑の中でのんびり休んでいるかのよう。

39 作者/熊坂 兎子 (くまさか・なおこ 1933-) …略歴は P20
竣工年/1995 年
作品寸法/H64 × W91 × D47cm
作品材質/大理石
📍 大庭城址公園 (大庭 5230)

④③ ひか かげ 光る風



シンプルながら、存在感たっぷりの石彫作品。正面に立つと、風が左から右へと吹き抜けていく錯覚を感じそうです。

④⑤ そら ひょうじょう 空の表情



太陽と雲のレリーフが施された石彫作品。いかなる天気の日も、公園を訪れる人を正面で迎えてくれます。

④③ 作品寸法／H192 × W139 × D30cm

作品材質／石、鉄

📍大庭丸山公園（大庭 5526-1）

④④ 作者／熊坂 兎子（くまさか・なおこ 1933-）

…※略歴は P20

竣工年／1984年

作品寸法／H80 × W130 × D30cm

作品材質／大理石

📍遠藤公園（遠藤 639-2）

④⑤ 作品寸法／H179 × W74 × D48cm

作品材質／石

📍北永山公園（遠藤 742）

④④ か たいよう とも 駆ける太陽と共に



「人間にとって大きな存在である太陽、自然、地球と共に生きる」というコンセプトで作られた作品。その力強さとしなやかさは、現代人へのメッセージとも思われます。

すず みずおと よそ 涼しげな水音に寄り添う



④① ④② にばんがまえこうえん ちょうこく 二番構公園の彫刻

④①~④② 竣工年／1985年

作品材質／ブロンズ

📍二番構公園（大庭字二番構 5528）



南側の池には、布をふわりと体にまとわせ、水瓶を抱えた女性と、二人の幼児。北側の噴水には、三者三様のポーズをとる女性たち。水のある細長い公園のアクセントとなっています。

だいこくばし
47 大黒橋のモニュメント

小出川の流れを模したような、動きのある造形が印象的なモニュメント。牧歌的な風景の中できらりと、ひととき異彩を放っています。



川の流れと、
水面にちかづく陽光



47 作品寸法 / H310 × W100 × D100cm
作品材質 / ステンレス
●大黒橋小公園 (遠藤字諸ノ木 5845-6)

おおばだいばえん
48 大庭台墓園のブロンズ像



むじゃきすがた
無邪気な姿をなつかしむ

広い墓園の一角、木陰にある彫刻。碑には、平安時代の歌謡集『梁塵秘抄』から、童心を詠んだ有名な一節が刻まれています。



48 作品寸法 / 向かって左 : H90 × W35 × D20cm、向かって右 : H55 × W50 × D30cm
作品材質 / ブロンズ
●大庭台墓園 (大庭 3782)

むすめ
46 シャツブラウスの娘



いつも元気に遊ぶ姿を見ていたい

この一瞬のポーズが決め手

シャツの大胆な着こなしや質感はもちろん、手を腰にあて足をクロスさせた全身の絶妙なバランスが特徴的な女性像。思わずシャッターを切りたくなるポーズですね。作者は日常生活の中で一瞬だけ見える「人間の美」を追求した作品を多く残しています。

46 作者 / 佐藤 忠良 (さとう・ちゅうりょう 1912-2011) …宮城県生まれ。ブロンズや木彫の生き生きとした女性像などを多く制作。絵本『おおきなかぶ』(福音館書店、1962年)の挿絵も手がけた。1966年には東京造形大学教授に就任し、後進の育成に努めた。

竣工年 / 1983年
作品寸法 / H165 × W85 × D30cm
作品材質 / ブロンズ
●秋葉台公園こもれび広場 (遠藤 2000-1)



おど ふたり あいだ かよ あ
踊る二人の間に通い合うのは？

フォークダンスを踊りながら見つめあう少年と少女は、まるで恋人同士のように見えますね。しかし、タイトルが「友情」となると、作品をみる人の受け止め方も自ずと変わってくるのでは。作品とタイトルの相互作用に目を留めるのも、鑑賞の楽しみのひとつです。

49 作者/安田 周三郎(やすだ・しゅうざぶろう 1906-1981) …東京都生まれ。東京美術学校を卒業、彫刻の道に進む。横浜国立大学で教授として教鞭を取った。主に神奈川県内で作品を多く残している。

竣工年/1973年
作品寸法/H160×W100×D55cm
作品材質/ブロンズ
◎藤沢市少年の森(打辰2345)



column

ふじさわししょうねん もり
「藤沢市少年の森」

アスレチックコースやキャンプ場など、野外で遊びながらさまざまな体験ができる野外活動施設です。緑の中で思い切り体を動かせば、気分はすっかり自然児！



石川さんが2016年に藤沢市アートスペースで開催した展覧会に出展した作品です。

《日常-家-》

大理石/H150×W160×D90cm/2015

つくるひとに、きいてみる
石川 直也さん

P.13 から続き

編集 (以下、H). 制作時間はどのくらいかかるものですか？

石川 (以下、I). 小さいものなら一週間でできるものもありますが、大きいものは一年以上かかる場合もありますよ。石の磨きには、形を作るのと同じくらい時間がかかります。

H. 磨くのものにもそんなに時間が…！では、ブロンズ像の場合は？

I. 原型となる彫刻を型取りして、そこに金属を流し込むという過程で制作するので、原型は主に塑像(粘土)になります。石と違うのは、はじめは量の無い状態から、粘土をつけていかなくてもはいけないところです。多くは心棒と言われる木材を用意し、しゅろ縄を巻き、粘土のくいつきを良くすることからはじまります。粘土をつけるのは数日で終わることもありますが、そこからまた粘土を取ったり付けたりすることが数カ月続くこともあります。塑像の一番の道具は自分の手ですが、ヘラなどの道具を使って様々なマチエールや表現が可能です。また、粘土は保存するにはブロンズなど丈夫な素材に置き換えなければいけないので、形ができただけでは終われないという部分は石と同じですね。

H. 多くの工程を経てようやく作品が出来上がるのですね。さて、そんな風にして作られた藤沢のパブリックアートには、どんな印象がありますか？

I. 昔から親しんでいたのは、片瀬江ノ島駅前の弁天橋にある《雲の形》(P9)ですね。毎日この彫刻を見ることで、形の面白さや作家のすごさに気付くことができ、好きな彫刻になっていきました。

H. 近くにあるからこそ、何度もじっくり見ることができるのですね。

I. パブリックアートは、身近にあることでどんどん特別な存在になっていくものだと思います。私の場合、《核兵器廃絶平和祈念像》(P20)は、2019年に修復に携わったことから、通るたびに見守るようになりました。いつか私も、藤沢の誰かにとって身近に親しめる彫刻を置けることを願っています。

石川 直也(いしかわ・なおや) 1987年生まれ。藤沢在住。石彫による作品を制作しながら、自身がオーナーを務めるギャラリー&カフェ「Gigi」(江ノ島1-4-11)で、さまざまな若手芸術家の作品を紹介。新潟県十日町市に《日常-猫と花-》がパブリックアートとして設置されている。

THE NORTHERN PART OF FUJISAWA
藤沢北部 2
MAP



50 子どもとウサギ
→ P48-49



51 くつろぎ
→ P48-49



52 花のかんむり
→ P48-49



53 屋さがり
→ P48-49



54 姉弟
→ P48-49



55 ささぶね
→ P48-49



56 水あそび
→ P48-49



57 しゃぼん玉
→ P48-49



58 にっぽんの詩
→ P50



59 湘南台公園の
ハニワたち
→ P51



J K ハーメルンの
笛吹き
→ P52-53



(竣工年/作品寸法/設置場所)

※作品材質はすべてブロンズ

- ⑤0 1993年/H66×W67×D31cm
- ◆ 渋谷の里公園(下土棚1109)
- ⑤1 2005年/H70×W75×D33cm
- ◆ 六会公民館石川分館(石川1-1-22)
- ⑤2 1995年1月/H88×W73×D36cm
- ◆ 丸石公園(石川5-13)
- ⑤3 1995年1月/H71×W87×D65cm
- ◆ 桐谷公園(円行1-4)
- ⑤4 1995年1月/H86×W77×D50cm
- ◆ 一色公園(石川6-12)
- ⑤5 1995年1月/H88×W55×D57cm
- ◆ 円行下原公園(円行2-15)
- ⑤6 1995年1月/H120×W82×D50cm
- ◆ 山田公園(石川2-24)
- ⑤7 1995年1月/H100×W50×D68cm
- ◆ 北原公園(遠藤2006-15)



⑤4 姉弟



⑤0 子どもとウサギ

ブロンズ像の子どもたち

藤沢市の都市計画事業にともない、たくさんの公園が作られた際に設置された数々のブロンズ像の子どもたち。遊んだり、本を読んだり、それぞれのポーズを繋いでいくと物語が生まれそうな気がしませんか？

いつも、この公園で



⑤7 シャボン玉

⑤5 ささぶね



⑤6 水あそび



⑤2 花のかんむり



⑤1 くつろぎ



⑤3 昼さがり



いまみまも
今は見守り役？
あそあいて
遊び相手？

しょうなんだいこうえん
⑤9 湘南台公園のハニワたち



男子



馬型



動物



家



武人



巫女



女子



動物



船

3世紀後半から6世紀ごろに作られた土製の埴輪は、古墳にならべる副葬品として使われました。現代のハニワたちは、今日も元気に遊ぶ子どもたちを眺めて何を思うのやら。

⑤9 作品寸法／武人：H146 × W50 × D50 cm、巫女：H102 × W43 × D43 cm、船：H150 × W630 × 110 cm、馬型：H160 × W155 × D55 cm、動物：高さ63 × 直径20 cm、男子：H110 × W57 × D22 cm、女子：H110 × W42 × D32 cm、家：H280 × W200 × D194 cm

作品材質／コンクリート

📍湘南台公園（湘南台7-16）

column

しょうなんだいぶんか 「湘南台文化センター」

複合施設として1989年に開館。地球儀（子ども館）と宇宙儀（市民シアター）をイメージして作られたドームや近未来的な建物の装飾は、いわば街のシンボル！ 多彩なプログラムも人気です。



空の両側から風神雷神、富士山のふもとには祭りの情景、そこにも大人も子どもも混ざり、この上ないにぎやかさ！ 今にも祭りばやしや歓声が聞こえてきそうな、楽しさあふれるレリーフです。



みあげればちからわ
見上げれば力が湧いてきそう！



⑤8 にっぽんの詩 うた

⑤8 作者／原画：田澤 茂（たざわ・しげる 1925-2014）…青森県生まれ。軍隊生活を経て、炭鉱などで働く傍ら、絵を描き始める。辻堂に居を構え、民話や神話、神仏群像、鬼や妖怪などを題材に、ユーモアにあふれた作品を精力的に制作した。※製作は現代壁画研究所。

竣工年／1995年

作品寸法／H300 × W600cm

作品材質／陶板レリーフ

📍長後市民センター エントランスホール（長後513）





⑨ 藤沢聖苑のモニュメント

① ⑧ ハーメルンの笛吹き



① 平和モニュメント



⑥ ぶどうを持つ少女

⑦ 自由の翼



① 弥勒寺太郎

- ① 作者／平野杏子 ♪辻堂 1-14-1
- ② 作者／熊谷喜美子 ♪辻堂砂場公園 (辻堂 3-20)
- ③ ♪辻堂高砂東公園 (辻堂 5-3)
- ④ ♪日の出橋 (鵜沼海岸 5-11 付近)
- ⑤ ♪江の島 1-12-2
- ⑥ 作者／熊坂兎子 ♪江の島 1-10
- ⑦ 作者／細野稔人 ♪藤沢市民病院内 (藤沢 2-6-1)
- ⑧ 作者／新妻実 ♪藤沢聖苑 (大鋸 1251)
- ⑨ ♪弥勒寺第二公園 (弥勒寺 1-17)
- ⑩ ⑪ ♪今田公園 (湘南台 7-41)、中丸公園 (湘南台 3-28)
- ⑫ ♪ JR 藤沢駅北口サンパール広場内 (藤沢 555)



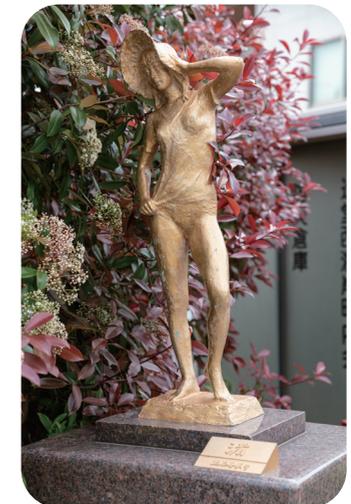
③ ブロンズ像 (2人の子ども)



④ 日の出橋欄干のカモメ



⑤ 1964年のオリンピック聖火台



② 渚

① 海鳴りの樹



まだまだほかにも。

これまでご紹介した作品以外にも、藤沢市内にはいろいろなパブリックアートがあります。もしも近所で新しい作品を発見したら、教えてくださいね！

Fujisawa Art Re;public (フジサワ・アート・リパブリック)

— 藤沢で再発見! まちのアート探訪

藤沢市アートスペースでは、パブリックアートを紹介する冊子作成を目標に、市内に点在する作品を2018年から調査し始めました。市民に情報提供をよびかけるとともに、調査の途中経過を写真や資料で紹介したのがこの展覧会です。展覧会には、湘南工科大学総合デザイン学科の学生が参加し、いつも見ている藤沢のパブリックアートの新たな表情を発見、さらにはなぜか気になる不思議なオブジェやまちの風景を、“ニュー・パブリックアート”と位置付け、映像、音、写真で表現する作品の他、新しい都市空間を提案する模型も展示しました。



撮影：升本尚希



撮影：林映君



撮影：鈴木賢哉

会 期：2018年12月15日(土) - 2019年1月11日(金)

会 場：藤沢市アートスペース
(辻堂神台2-2-2 ココテラス湘南 6F)

主 催：藤沢市、藤沢市教育委員会

後 援：J:COM 湘南、レディオ湘南

特別協力：湘南工科大学総合デザイン学科中尾・松村研究室

協 力：ココテラス湘南、公益財団法人藤沢市みらい創造財団

来 館 者：892名

市民からの情報：19件

観覧無料



まちの彫刻 ピカピカプロジェクト

作品のメンテナンスを目的とした「まちの彫刻ピカピカプロジェクト」は、市内に点在するパブリックアートを専門家の指導のもと、近隣の大学や市民と協働して磨きながらその設置経緯や作者について理解を深めるプロジェクトです。



まちの彫刻ピカピカプロジェクト Vol.1

開催日：2019年3月23日(土)

開催場所：奥田公園前広場 (P20 参照)

作 品：熊坂兌子《核兵器廃絶平和祈念像》1995年

講 師：石川直也(彫刻家) 熊坂兌子(彫刻家)

参加者：17名 (市内の高校生や近隣地域の方)

講師の石川さんから開催前に修復した箇所についての説明を受け、作品の磨き方を教わり、皆でピカピカ真っ白に仕上げました。その後、作者の熊坂さんから設置の経緯や制作のエピソードを聞きました。

まちの彫刻ピカピカプロジェクト Vol.2

開催日：2019年6月3日(月)

開催場所：江ノ島北緑地広場 (P6 参照)

作 品：加藤顕清《弁財天と世界女性群像》1964年

講 師：高橋裕二(有限会社ブロンズスタジオ)

篠原聡(東海大学課程資格センター准教授)

篠崎未来(小平市平藤田中彫刻美術館)

高嶋直人(アート&ソサエティ研究センター)

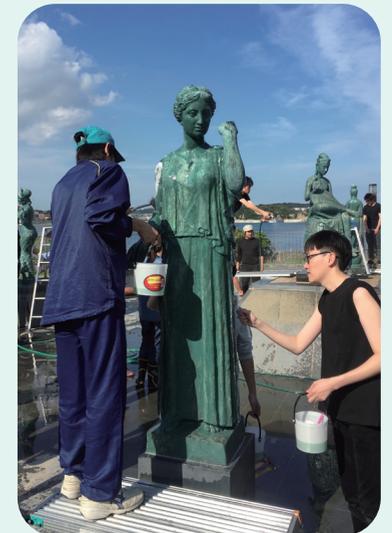
協 力：東海大学、湘南工科大学

参加者：87名(2020大会応援団、

湘南工科大学総合デザイン学科学生、

東海大学松前記念館実習生(博物館実習)

作者の加藤顕清と設置経緯についてアートスペース学芸員が解説した後、講師の高橋さんより、ブロンズ像のメンテナンス方法と保全活動の意義について説明いただきました。環境に優しい洗剤を使用し、ナイロンブラシで1体1体丁寧に皆で磨きました。



パブリックアートをさらに深く皆さんに知ってもらうために、藤沢市ではこんな取り組みをしているよ!





公共の空間に設置される芸術作品には、明治以降作られてきた著名人の銅像などが挙げられます。平和や自由を願う戦後の男女裸像や母子像を経て、欧米から“パブリックアート”の概念が輸入された1980年代には、街づくりの一環として各地で盛んにモニュメントなどが制作されました。時は流れて街の風景にすっかり溶け込み、つい見逃されがちになっている作品もあります。

この冊子が、数々の作品を改めて見つめなおすと同時に、芸術の領域が多様化した今、これからの藤沢のパブリックアートがどう展開していくか考えるきっかけにもなれば幸いです。

※鑑賞できる時期が限られた作品や一部の記念碑など、諸事情により掲載していない作品もあります。ご了承ください。



協力 (敬称略・五十音順)

参考文献

石川直也
親松英治
熊坂兌子
栗山賀行
兒玉慎憲
兒玉もえみ
小峰貴芳
前田耕成
宮原青子
山本一樹
山本正道

ODAKYU 湘南 GATE
株式会社湘南なぎさパーク
全優石
株式会社大源
藤沢市観光協会
藤沢銀座土曜会

『日本の彫刻設置事業 モニュメントとパブリックアート』
著者／竹田直樹、発行／公人の友社、1997年
『美術手帖 673号』
発行／美術出版社、1993年
『文化政策のフロンティア③ パブリックアート政策
－芸術の公共性とアメリカ文化政策の変遷－』
著者／工藤安代、発行／勁草書房、2008年

編集 鎌田さつき
執筆 鎌田さつき 小林絵美子
デザイン 宮古美智代 藤木敦子
撮影 熊野淳司
イラスト 横山寛多
印刷 藤原印刷株式会社
発行日 2020年9月
発行 藤沢市アートスペース
〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2-2-2
ココテラス湘南6階
TEL 0466-30-1816 FAX 0466-30-1817
©2020 Fujisawa city Art Space All rights reserved.



フォトレジット
表紙、pp.6-10、p.12、pp.14-20、p.21の㊸㊹、pp.22-35、pp.38-44、
pp.48-51、p.52の㊺㊻、p.53の㊼㊽㊾㊿ ㊿ ©Junji Kumano
p.45 ©Ayumi Matsuura
ここに記載のないものは全て ©藤沢市アートスペース